

パラグアイ国の森林

平田泰雅、齊藤昌宏、ルイス・ベガ、佐藤保、高橋正義（森林総研）

パラグアイは国土の約43%を占めていますが、半乾燥林の面積が広いいため森林の炭素蓄積は余り高くありません。森林は、温帯湿潤林、半乾燥林、乾燥林に分けられます。主に農地開発のため森林が伐採されていますが、違法伐採による森林劣化も見られます。

パラグアイ共和国は国土面積が日本とほぼ同じで、大西洋岸森林、セラード、パンタナール、湿潤チャコ、乾燥チャコの5生態領域に区分されます。森林タイプは比較的シンプルですが、同じ生態領域がブラジルやアルゼンチンにも広がっており、パラグアイで実施した研究成果は周辺国に波及効果が高いと考えられます。

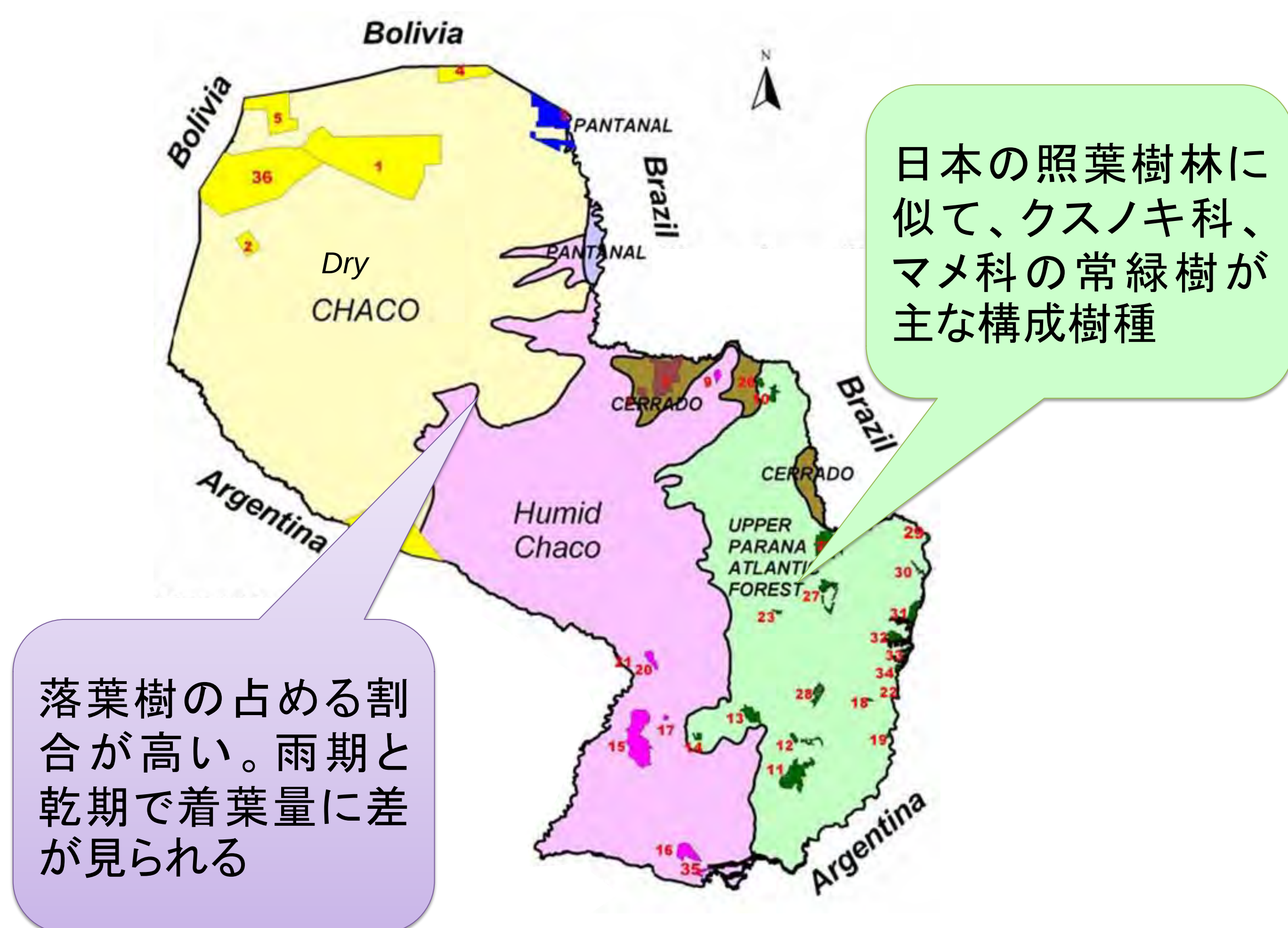


図1 パラグアイにおける生態領域区分

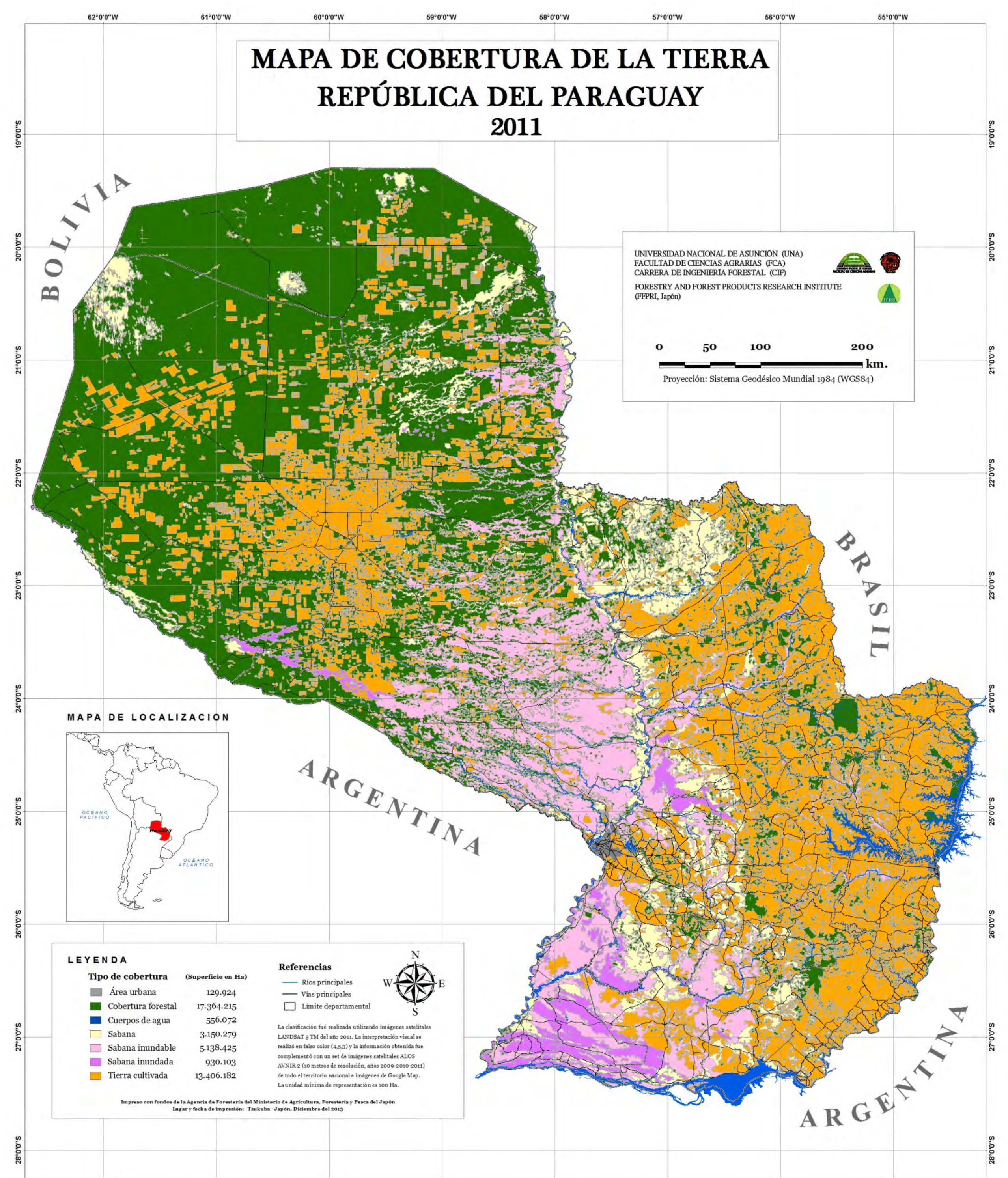


図2 REDDプロジェクトで作成したパラグアイの土地利用図



図3 生態領域でみるパラグアイの森林

すべての研究活動はアスンシオン国立大学、環境庁、国家林業院と森林総合研究所との共同で行われました。